

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (紀南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。 自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。 地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己肯定感・有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。 育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い、学び続けることができる教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>◎学校運営協議会は学校運営の主体として連携する相手との総括的な調整を行う。</p> <p>【同窓会】母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】卒業生が生き生きと生活し、成長する姿が感じられる高校。</p> <p>【地域の関係諸機関】さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくり。</p> <p>【PTA】生徒支援のためのPTA活動活性化。</p>		<p>◎学校運営協議会は連携する相手に対し、教育活動への積極的な参画を促す。</p> <p>【同窓会】生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】生徒に関しての情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくりを支援。</p> <p>【PTA】保護者との架け橋。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 「学校運営協議会委員と教職員との語る会」で明らかになった、生徒への支援と教職員の働き方改革を確実に進める必要がある。 学力に課題がある生徒や特別支援が必要な生徒の学びをサポートし、進路を保障するため、学習支援のボランティア等を効率的に活用する必要がある。 地域で子どもたちを育てる環境が整っている強みを活かして、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを具体的に提案する必要がある。 新型コロナウイルス感染症と共存した学校と地域の連携を考える必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学んだことをしっかり身に付け、それにより学力が向上するとともに、「学んだことが役に立つ」「やればできる」という体験をとおして自己肯定感や自己有用感を高めることが必要である。そのため、教育活動のあらゆる場面で生徒の自主性・主体性を引き出せるよう教職員が授業改善や教育課題に関する研修を積極的に行ってきた。これらのノウハウを継承・発展していくことが重要である。 安心して学校生活を送るために、生徒一人ひとりにあった方法で学校生活が支援できるように、生徒の様子等の情報を共有する機会を多く持つようにしてきた。また関係機関との連携も積極的に行うようにしている。これらのことを基盤として、より多様化する生徒の実情や環境に対応できるよう組織体制を整えていく必要がある。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像をふまえた、生徒へのより丁寧な支援のために、教職員が丁寧な情報共有をおこなう必要がある。 ・生徒に寄り添い、一人ひとりにあった方法で生徒を支援することは本校の教育活動の根幹である。このことには大変な労力と時間が必要であり、丁寧になるほどに業務の負担は増していき、メンタル面を含めた教職員の健康面に大きな影響を及ぼす。教職員の健康を維持しやりがいを持って教育活動に臨むことができるよう、業務を見直し、精選していくことが重要である。 ・一つ一つの活動を確実に充実させることが、中学生に選ばれる学校となることにつながる。教職員間と学校運営協議会の絆を強め、関係機関との対話・連携を密にし、学校運営の充実を図る必要がある。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進めます。 2. 生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。 3. 生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。 2. 積極的に研修を行い、教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努めます。 3. 質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した学校づくりを進めます。」に資する行動	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各家庭や地域と連携し、生徒の基本的な生活習慣等の確立に向けた様々な支援を行い、きめ細やかな進路指導を行う。 (2) 各学年と他分掌との協働や、地域の専門機関等との連携を深めながら、充実した学校生活を送れるように、学校全体で個に応じた支援を行う。 (3) 総合的な探究の時間等を活用し、地域理解の機会を設け、進路意識の向上につなげる。普段から相談しやすい環境作りを行う。 <p>【活動指標】1年次は家庭訪問年1回以上、全学年三者面談年1回以上、個別面談年3回以上実施</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 個別面談は全学年で3回以上実施。三者面談は1学期末に一斉開催、必要に応じて学校での面談や家庭訪問を行い、学校生活に対する心配事や学習面、進路希望について情報共有した。 (2) 校内での情報共有を常態化し、SCやSSW、市町の関連機関等とも連携し、生徒の支援につなげた。 (3) 進路研究や対話集会等の行事、個別面談や多くの進路ガイダンス・セミナー等を実施したことで、1年次から継続して地域産業等を学び、3年次では社会人としての心構えを伝達することができた。 <p>【活動指標】 達成</p>	

<p>②「生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。」に資する行動</p>	<p>(1)ICT活用の推進、持続可能な社会の創り手を育成できるよう、「SDG's」の理念を踏まえた防災教育の取組を行う。</p> <p>【活動指標】研修等を5回以上、検討会 1回以上実施、アンケート結果</p> <p>(2)進路資料室や総合掲示板などを活用することで、情報収集能力を育成するとともに、自らのキャリアについて主体的に意思決定し行動する力を育成する。</p> <p>(3)地域の保健所や消防署と協力し、思春期教育講演会やAED講習会を行う。</p> <p>【活動指標】講演会各学年年1回、講習会1回実施</p>	<p>(1)授業公開週間や授業力向上研修会等の設定、および情報発信を合計4回実施。</p> <p>【活動指標】80% 未達成</p> <p>今後の在り方の検討を1回実施。</p> <p>【活動指標】100% 達成</p> <p>年間を通じて防災リーダーの育成と防災学習を実施。生徒へのアンケート結果では、防災への意識が「高まった」「ある程度高まった」84.8%（目標70%以上）、防災を意識した行動をするように「なった」「ある程度なった」71.2%（目標50%以上）</p> <p>【活動指標】 達成</p> <p>(2)面談を通して丁寧に希望を聞き取ること、安心して進路決定できる環境を提供。学校斡旋就職を希望する生徒の内定率100%を達成。</p> <p>(3)各学年で地域の保健師等による思春期教育講演会、消防署員による応急手当講習会を実施。</p> <p>【活動指標】 達成</p>
<p>③「生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます」に資する活動</p>	<p>(1)様々な課題をもつ生徒に対して、学校全体で効果的な指導・支援が行えるよう、教員間で積極的に情報を共有するよう努める。</p> <p>【活動指標】担任・副担任との情報共有、週1回実施</p> <p>(2)生徒が、いじめや虐待に関する相談しやすい体制を作る。アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。</p> <p>【活動指標】いじめや学校生活に関するアンケート、学期に1回以上実施</p> <p>(3)人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。また、人権サークル部員の募集を積極的に行う。</p> <p>【活動指標】人権学習各学期1回以上実施、人権通信学期1回発行</p>	<p>(1)関連機関との情報交換、特別支援が必要な生徒について個別の指導計画の作成と評価、気になる生徒調査を実施。委員会等で情報共有し、全職員へも周知。毎朝担任、副担任の打ち合わせで情報共有を実施し、生徒の支援につなげた。</p> <p>【活動指標】 達成</p> <p>(2)学校生活に関するアンケートを年間5回実施し、生徒の実態把握に努め、早期に声掛けを行い、面談等による支援を実施。</p> <p>【活動指標】 達成</p> <p>(3)人権学習の中でグループワークを取り入れ、生徒同士の「つながり」を意識させた。また、人権教育通信「リスペクト」を学期1回発行し、生徒と保護者が一緒に内容を共有できるように工夫したが、人権サークル部員は希望者がいなかった。</p> <p>【活動指標】 達成</p>

改善課題

- ・基礎学力の定着や基本的な生活習慣の確立、SNSトラブル防止等について、課題がある生徒への更なる支援が必要である。
- ・生徒が自分のキャリアについて主体的に意思決定する力や行動力を育成するため、長期展望に立ち、系統的な指導計画を立てる必要がある。
- ・ICT活用や授業のユニバーサルデザイン化の推進、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、観点別学習状況の評価の実施について、今年度の課題を収集し、来年度以降の研修の質的向上を図る必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>①「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。」に資する活動</p>	<p>(1) SNSを活用したり、中学校での学校紹介を工夫したりして、本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子を発信する。 【活動指標】年間40回以上の情報発信、学校紹介動画1本の作成</p> <p>(2) 関係機関と連携し、交通安全や防犯などに関わる啓発活動やボランティア活動、他校との交流会等に積極的に参加する。 【活動指標】年3回以上実施</p> <p>(3)「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」などの会議において、本校の人権学習を公開し、その内容について交流、協議を実施する。</p>	<p>(1) 本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子をブログで74回発信(1月末現在)した。また、中学校での学校紹介等に使用できる動画を2本制作し、ホームページにアップした。 【活動指標】 達成</p> <p>(2) 紀宝警察署と連携し、特殊詐欺防止の防犯ボランティアに2回参加。また、図書館を考える会・御浜町図書室活性化会議と連携し、月に1度ピネで読み聞かせボランティアを実施。 【活動指標】 達成</p> <p>(3) 人権教育推進委員会は計9回開催し、人権学習の指導案検討や生徒情報の共有を行った。 【活動指標】 達成</p>	
<p>②「積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。」に資する活動</p>	<p>(1) 学年団とともに進路指導業務を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を向上する。</p> <p>(2) 特別支援教育に関する研修会を行う。 【成果指標】年2回実施</p> <p>(3) 教職員への人権啓発を促進する。また担当者会議を計画的かつ系統的に行う。 【活動指標】研修会年2回以上、人権教育担当者会議年6回以上実施</p>	<p>(1) 各学年のニーズに応じて、ガイダンスやイベントを企画し、連携や情報共有を実施。担任との連携やICT活用が不十分な点もあり、課題が残った。</p> <p>(2) 特別支援教育に関する教員向け研修会1回、教育相談研修会1回実施。 【成果指標】 達成</p> <p>(3) 教職員向け人権研修会は計2回実施。教職員向けの人権通信『勁草』を3回発行して人権研修会等で得た情報や生徒の活動を共有。人権教育推進委員会は計9回開催し、人権学習の指導案検討や生徒情報の共有を実施。 【活動指標】 達成</p>	

<p>③「質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。」に資する活動</p>	<p>(1)次世代の育成に必要な指導体制を確立するため、総務・教務部の業務の大胆な見直しを推進し、学校規模およびスタッフ数に応じた業務の適正化を図る。</p> <p>【成果指標】業務カテゴリ数の削減、簡易化、効率化 30%以上</p> <p>(2)きめ細やかな生徒支援の実行に向け、教育相談・特別支援担当と連携し、生徒のサポートの一助とする。</p> <p>(3)教職員が働きやすい環境づくりの考え方を踏まえ、以下の成果指標・活動指標を目標とし、学校における働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 95%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間 30 時間以下 ・1 人当たりの年間休暇取得日数 20 日 	<p>(1)業務の削減または簡易化・効率化を計画したが、令和3年度の達成率 21%からの進展はなかった。</p> <p>【成果指標】 未達成</p> <p>(2)様々な部署で連携して、問題の早期発見や解決に繋げることができた。</p> <p>(3)本校教職員のストレスチェックの指標から判断すると、働きやすい環境ではあるが、一部職員への仕事の偏り等が見受けられる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校率 94.7% 達成 ・部活動休養率 100% 達成 ・会議終了率 76.1% 未達成 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・360時間超え労働者 2人 未達成 ・45時間超えのべ人数 20人 未達成 ・月平均時間外労働 19.8時間 達成 ・年間休暇取得日数 20日 達成
---	---	--

改善課題

- ・生徒の進路保障のため、学校生活や学習面等で保護者との継続した情報共有や連携が必要である。
- ・生徒が必要とする支援は多様化しているため、教員の心身の負担となりつつある。教育目標の実現を最優先に考え、“生徒ファースト”の視点で業務内容を精選する体制が必要である。
- ・今後の生徒募集においては、「インスタグラム」等を活用した学校紹介の在り方を研究する必要がある。
- ・生徒の個別の課題解決や問題行動に適切に対応するため、今以上に専門機関や外部機関との連携をとる必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティア活動はじめ、様々な活動が地元のメディアに多く取り上げられていたので、今後もインターンシップの充実等中学生に選ばれる学校の魅力を発信する必要がある。・ 学力に課題がある生徒や特別支援が必要な生徒の学びをサポートし、進路を保障するため、学習支援のボランティア等を効率的に活用する必要がある。・ 地域で子どもたちを育てる環境が整っている強みを活かして、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを具体的に提案する必要がある。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく必要がある。・ 新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されていく中でも、効果的な情報発信が求められる。1人1台端末を有効活用するため、教員のスキルアップが求められる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 広報活動では、熊野エリア道の駅協議会との連携や地元市町の協力を得た防災活動等、生徒主体の活動を活性化させ、多くの活動を発信していく。・ 今後、働き方改革を進めるため、業務内容の改善をすると共に、スクールサポートスタッフや教育ボランティア等の協力により、ワークライフバランスの整った学校運営をしていく必要がある。